

(倫理様式 2-2-1)

部屋着と外出着両方が自立した脳卒中片麻痺患者の特徴

1. 研究の対象

2018年6月から2022年3月まで回復期リハビリテーション病棟に入院した初発の脳卒中患者で、片麻痺を呈し、退院時部屋着の更衣動作が自立していた全症例。

2. 研究目的・方法

当院の回復期リハビリテーション病棟では、在宅復帰後の生活を考慮し、部屋着のみならず外出着の着用も更衣訓練として作業療法士が関わっています。当院の先行研究にて、部屋着と外出着の更衣特性の違いから更衣動作の自立度が異なることと、外出着の自立には部屋着の自立から約2週間要すことを報告しています。しかしながら、部屋着が自立したのにもかかわらず、外出着が自立した患者と外出着が自立に至らなかった患者の特徴の違いについては検討していません。そこで今回、部屋着が自立した患者において、外出着が自立した患者と自立に至らなかった患者の特徴を調査し、外出着の更衣訓練を行う際の一助にすることを目的にします。

当院リハビリテーション部では、入院時と退院時にリハビリテーション担当者が身体機能評価や生活状況の評価を行っています。今回の調査には、このデータを活用し、年齢、性別、入院日数、回復期リハビリテーション病棟退院時のBrunnstrom stage (BRS)、Functional Independence Measure (FIM)の認知項目を調査します。方法は、外出着の更衣動作が自立していた患者と、自立には至らなかった患者に群分けし、比較します。

これらの研究は、2024年1月～2025年12月の間に実施します。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：年齢、性別、疾患、身体機能の情報、生活状況の情報 等

※個人情報等の取り扱いとして、個人が特例される情報は用いません。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

(倫理様式 2-2-1)

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 リハビリテーション部

研究責任者 飯野雄太

住 所：群馬県伊勢崎市太田町 366

T E L : 0270-27-8813 F A X : 0270-24-3359